

こころまち つくろう
KEIHAN
京阪電車

知らなかったな、
手間をかけるから
“ぜいたく煮”だなんて。

井上佃煮店
中之島けい子



有次



樹徳本店



中央米穀

おけいはんの錦アドベンチャー

にしきいちば
京を味わう「錦市場」へ、祇園四条駅から。



おけいはんが錦市場を探検!
フォト日記やエリア紹介マップをweb上で公開しています。

チャレンジおけいはん

検索

Facebook

@c.keihan

※ 詳しくは、京阪電車主要駅のチラシをご覧ください。



歩くだけで
ワクワクする

京阪の
おけいはん人。

月刊島民

中之島

Vol.68 2014 3/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島に
昼がきた!



ナカノシマ大学

「クラブ・リバーサイドをもう一度」

&

「古地図ウォーカー、
大阪をゆく」

申し込み受付中!

中之島に昼がきた!

「社食」と呼ばないで。

中之島にあるオフィスビルの食堂やカフェテリアには、そこで働く人たちだけでなく、誰でもどうぞ、というところも意外に多い。しかし、その中身は「社食」と呼ばれていた時代から、ずいぶん変わっている。中之島のビルの昼ご飯事情から、何が見える？

取材文／大迫力（本誌） 李宗和

●ダイビル本館4階 カフェテリア

中之島最新のカフェテリア。定食や麺・井ものが豊富にラインアップ。テイクアウト用のお弁当BOXも販売するなど、さまざまなワークスタイルに対応。利用時はプリペイドカードの購入が必要（中之島ダイビルと共通）。11:30AM～1:30PM 土・日・祝休



レンガや木材を使ったシックな内装は、ビルの中であることを一瞬忘れる。一番奥にある窓に面したカウンターは、目の前に田養橋と堂島川が広がる特等席だ。

吹

き抜けの高い天井と大きな連続窓が、明るく広々とした空間を演出。奥へ向かってアールを描く作りが印象的なここは、昨年再オープンを果たしたダイビル本館の4階。窓から見える堂島川も、リラックスできる雰囲気は一役買っている。

肝心の料理は、10品目の素材を使った3種の小鉢付きの定食や、野菜がたっぷり入ったカレーなど、手づくりのメニューを意識。厨房の中を見渡せるオープンキッチンで、トレイを持って並ぶカウンターには鉄板が置かれ、目の前で焼いて出すなど、ライブ感が食欲をそそる。

そのカウンターの下の壁を見ると、茶色いレンガが貼られている。これは旧ダイビルの外装レンガを再利用したもの。歴史を継承しながら最新のビルをつくるという建て替え時のコンセプトが、ここでも貫かれているのだ。



真ん中に仕切りのある縦長の窓の形は、建築好きには一目でダイビルだとわかる。「大阪随一」と呼ばれた名ビルで働いている気分になれる、新たな観光名所とさえ言えるかもしれない。

ダイビル本館&中之島ダイビルの カフェテリアを手がける

商船三井興産 籠田泰士さん



中之島ダイビルでイベントをやるようになったのは、昨年の10月からです。オープンしてから5年が経ち、何か目新しいことが必要だと感じていました。また、ダイビル本館に新しく入ったお客様から、「前にいたビルではやっていたが、こちらではないのか」というご意見をいただいたのもきっかけになりました。

イベントの企画はいつも本当に手づくりです。みんなでお茶を飲みながら、「何をやろうか?」と話し合っ、決まった順番からやっていく。まだ始めたばかりですし、やりながら試しているような段階ですね。

イベントをやると、最近来ていなかった人が来てくれたり、売り切れないよう早めに仕事を切り上げて来てくださる方もいて、やって良かったと思います。今後も月に1回くらいのペースで続けていく予定です。たとえば売り上げに結びつかなくても、「何かやっているんだな」と知恵を絞っていることが伝われば、足を運んでくださる機会も増えると思います。

◎3月は「牛井」が登場。

牛井の[松屋]が両ビルのカフェテリアに出店。

ダイビル本館:3月24日(月)・25日(火)

中之島ダイビル:3月26日(水)・27日(木)・28日(金)

20食が12時20分には売り切れた。
こうしたイベントは月に約1回のペースで行われているそう。2月にはソチオリンピック開催にちなんだロシア料理フェアが行われたほか、過去には



情は豊かだ。
中之島のオフィスビルの多くにカフェテリアや食堂が入っているが、「社食」と呼ばれた時代などは昔、どの店も趣向を凝らして、働く人たちの昼ご飯を美味しく楽しいものにしようとしている。それがビルの中だけのものではないのだから、中之島の昼ご飯事は豊かだ。

スペイン料理フェアや新規開店のラーメン店とのタイアップ企画もあった。
また、ダイビル本館でも化粧品メーカーのPOLAとのコラボで、同社が開発した「美肌ランチ」を食べるとサンプル商品がもらえるだけでなく、ハンドマッサージのサービスも受けられるなど、オフィスビルの中とは思えない企画もあった。

●中之島ダイビル5階 カフェテリア

本館同様、窓の大きな明るく広々とした店内。奥のサロンスペースがランチタイムには開放され、女性グループに人気。こちらも利用時にはプリペイドカードが必要。会社の歓送迎会など、パーティーでの利用も多いのだそう。11:30AM~1:30PM 土・日・祝休



お昼時はご覧のにぎわいぶり。窓際カウンターはお一人様に人気。オープンキッチンになっていて、店内に入った瞬間、いい香りに包まれてお腹が鳴る。



ビル食四季報

取材文／江口由夏
大迫力 李宗和

薬膳



●中之島三井ビル4階 Riverrest

3月の「薬膳Kitchen」は毎週火曜日に登場。3月4日は「スパイス鶏のロースト」、11日は「春野菜の豚ブルコギ井」など、名前だけで食欲のわくメニューばかり。この他にもフェアがあり、焼きたてパンコーナーも充実している。11:30AM～1:30PM 土・日・祝休



この日はお粥。エビのすり身の団子、貝柱、白キクラゲなどがたっぷり入ってボリューム満点。

ーとは異なり、食べることによって健康になるというのが薬膳の考え方で、ボリュームもあり、味付けも香りもしっかり。仕込みにも注文を受けてから出すまでも手間がかかっており、美味しくて身体にもやさしいことから、女性を中心にかなり評判は良いそう。

一方、中之島セントラルタワーで人気なのが、カフェテリア入口に設置されたベーカリーコーナー。ハード系、デニッシュ系、

オフィスビルのカフェテリアでイベントが行われるのは、今や当たり前。他にはどんなものがあるのか、そのバリエーションを見てみよう。

中之島三井ビルで1月からスタートした「薬膳Kitchen」。中国の伝統医学の理論に基づいて作られる薬膳メニューが毎週1日登場する。いわゆるヘルシーメニュー

がつつり惣菜系など、厨房奥の窯で焼かれたパン10種類ほどが並ぶ。パスタだけでは物足りないからパンも一つ…という具合に、開店からあつという間に売り切れに。最近ではパンとスープのセットも登場し、ごはん物や麺物に負けず劣らず、ランチの主役を張る食べごたえと味が定着しつつある。

中之島インテスのご当地ラーメンフェアは、毎週火曜日の恒

カフェテリアは「イベント」の時代。

中之島三井ビル／中之島セントラルタワー／中之島インテス

ご当地
ラーメン



取材時は熊本ラーメン(400円)。ニンニクが香ばしいスタミナスープが午後の仕事の活力に。+80円で杏仁豆腐が付く。

●中之島インテス11階 フルーヴ

3月の「ご当地ラーメン味めぐりフェア」は毎週火曜日開催。3月4日は北海道の豚骨味噌、11日は東京の豚骨醤油ラーメンが登場。カフェテリアの窓から中之島を広く眺められるロケーションも、「気分転換に最適」と人気だ。11:30AM～1:30PM 土・日・祝休



焼きたて
パン

(上から)平焼きチーズ、ショコラパン、ブルーベリーベークル。誌面ではお伝えしきれないボリュームです。

●中之島セントラルタワー3階 カフェテリア

パンはいずれも驚きの130円均一。大きなフライを挟み込んだハンバーガー系なら200円。まだ温かく、生地もばりっとした焼きたてがテイクアウト可能。「ハーブ&スパイスフェア」といった刺激的なイベントも好評。11:00AM～1:30PM 土・日・祝休



島民必携

グルメチケット

ドージマ地下センター



「堂島や中之島に住み始める家族連れにも知ってほしいですね」と、ドーチカ商店街振興組合の樋口弘之さん。



「ドーチカ」ことドージマ地下センターに、何やら行列が昼休みに突入するやいなや、南端の「天使の広場」に列を作っている人、人。人。背広の男性から制服姿のOLさんたちまで、財布片手にスタンバイしている。

お目当ては、毎月第1月曜日に販売される「ドーチカグルメチケット」。300円のお金券が4枚綴りになった一冊が1000

0円ばかり、つまり200円もお得なのだ。常連さんが多いのか、慣れたように3本の指と千円札3枚を出して、上限の「3冊ちょうだい」という声が目立つ。そのチケットを片手にすぐに食事行く人、とりあえず財布にキープする人、「試しに買ってみたら案外お値打ちで、ランチ後に慌ててもう1冊買いに行きました（笑）」という人もいた。チケット誕生から今年で20年目。当初は売り切れるのに苦労した600冊も、ご近所の口コミで、今や2時間で完売御礼。「先

●ドージマ地下センター「ドーチカグルメチケット」

3月の販売日は3日(月) 11:00AM~1:00PM(1人3冊まで・売り切れ次第終了)。当記事をご覧の方、お忘れなく。4月は7日(月)に発売される。
<http://www.dotica.or.jp>

計測器メーカーのタニタは、社食ブームの火付け役としても知られる。「美味しくて満腹になるのに、なぜか健康になった!」と、自社の社食メニューが話題に。そのレシピ本の大ヒットは記憶に新しい。

そんな一世を風靡したタニタの監修メニューが、西日本で唯一、中之島の住友病院のレストランで味わえる。昨年5月にスタート。メタボ撲滅に尽力する松澤佑次院長の思いと、タニタが目指す健康づくりが一致したところか。

噂の週替わり定食は、皮を除いた鶏肉、サワラやサンマといった淡白な魚をメインに、副菜

2品と汁物もあるバランスの良いセット。素材選びの段階で大幅にカロリーカットし、500kcal前後に抑え、もちろん塩分もひかえめ。特徴的なのは野菜の大きさと硬さへのこだわり。



一番人気のチキンマスタード焼を筆頭に9種が週替りの登場(800円)。オリジナル茶碗でごはんの調整ができる。

「タニタ」監修のメニューあります。住友病院

例えばニンジンなら、大きめにカットしてリングほどの歯ごたえを残すことで、自然と噛む回数を増やす。これがヘルシーなのにしつかり満腹になる秘密なのだ。

限定30食は早々に売り切れてしまう日も多いが、「目や手の届く範囲で丁寧に調理して、レシピに忠実な食事を届けていきたい」と、横井店長は話してくれた。

●住友病院1階 レストランいずみ

通常メニューはオムライスやサンドイッチなど、街なかのレストランのよう。受診に訪れた人々の憩いの場として大活躍。7:00AM~6:30PM(土・日・祝8:00AM~) 無休
※タニタ監修メニューは平日11:00AM~3:00PMまでの販売



社食「あるある」川柳③ 「500円 タバコを買うか 珈琲か」

悩みます。止めればいいけど止められない。オフィスにもあるけれど喫茶店がいい。えてしてサラリーマンは無邪気な生き物です。わかちやいるけど止められない。

関電ビルの3階に、誰でも利用できるミーティングスペースがあるのをご存じだろうか。2004年の竣工時に、地域に開かれたビルを目指して設けられたもの。同社社員の利用だけでなく、ビルを訪問した人との打ち合わせをしたり、あるいは商用の合間に資料を整理したり、パソコンを開くビジネスマンの姿もちらほら見受けられる。



間接照明の落ち着いたスペース。「会議室でやるのとはまた違った雰囲気できち合わせができる」と社内でも好評なのだそう。

●関電ビルディング3階 中之島ミーティングプレイス

中之島で働くワーカーのために開かれたスペースで、書架には写真集なども置かれている。カフェの窓際のカウンターにはコンセントも完備。カフェ／9:00AM～5:30PM 土・日・祝休



「ビル中」が最先端だった時代。
中之島センタービルと中之島六番街

ここは オープンスペース。

関電ビル／中之島フェスティバルタワー

すぐそばにカフェが併設されているため、コーヒーを飲んで一服したり、ホットドックやパスタの軽食もある。知られざるビットインスポットといったところだが、覚えておくと便利かもしれない。

一方、中之島フェスティバルタワーにも、意外と知られていない穴場がある。エレベーターの乗り換えフロアにあたる13階スカイロビーの東側に、テーブルとイスの置かれた共用オープンスペースが。ビルで働く人に



目立たない場所ながら、それだけに「集中して仕事ができる」「落ち着ける」といった常連客の声も。

混じって、ホールでのコンサートやカルチャーセンターの習いの合間に一息つく人たちもいる。お茶でも飲みたいという人は、すぐそばにカフェ「Ciao」(右写真)がある。エレベーターホール裏手の小さな店にもかかわらず「かなりメニューが充実している」と評判を呼んでいる。

●中之島フェスティバルタワー 13階 スカイロビー

東側に一般の人でも利用できるスペースがある。眺めが良く、高い天井の気持ちいい空間。ここでは飲食不可のため、食事はカフェの利用を。[Ciao]8:00AM～7:30PM(土・日・祝11:00AM～) 不定休



だから、その地下に広がる「中之島六番街」を愛する顔ぶれも変わらない。食堂あり、カウナーだけの喫茶店あり、理容室から服飾店まで、殺風景だった倉庫街エリアに広がる華やかな地下帝国はまさに最先端だった。



を管理する大阪地区開発の山下昭治さん。創業以来、その顔ぶれはほぼ変わっていないそう。

関西電力やNTT西日本の関連会社や関西経済連合会など、大阪を代表する面々が入居し、そのネームバリューに惹かれ、新しく仲間入りする企業は胸を躍らせた。「ここに拠点を構えることが誇りにつながっているんです」と、ビル



市役所食堂は強い味方。

大阪市役所



昼時の風景。一人で訪れる人や女性も多い。円形の照明やタイル調のフローリングなどは、渋ビル好きにもヒットでは？



大阪市役所の12時15分。昼休みを告げるチャイムが鳴ると、職員たちは一斉にエレベーターで地下2階へ。お目当ては地下にある食堂の定食だ。券売機の

前には瞬く間に行列ができ、食券を買った職員は次々とトレイを手に取って料理をサーブしてくれるコーナーに一直線。5分もすれば200を超える座席は満席になる。

その活気はまるで市場のような雰囲気だ。「トラディショナル社食」ムードが漂うが、それも昼休みが終わる少し前の1時くらいまで。以降は市役所に手続きをするためにやって来た市民がお茶をしたり、遅がけランチのために訪れている。

とは言え、「社食」は気になるのだ。

「けっこうみんな見てくれてたんだな、と思いましたね」
あるビルのカフェテリアの担当者
者が、イベントへの反応をふり返ってそんなことを言っていた。

そう、なんだかんだ言って、自分が働くビルの店は気になる。毎日働く場所なのだから、愛着もある。何かあるなら行ってみたくなるのは人情だろう。

ただそれは、「安い」、あるいは「外に出なくて済む」といった消極的な理由だけではもはや通用しないという、ある意味ではシビアな事情を物語っている。
中之島以外のエリアでもオフィスビルがどんどん建てられて

「食堂にパソコン持って来る新人」

何かをアピールしているのでしょうか？ だとしたら絶対に間違っていると思うのです。目には見えない。そういうヤツを見ているとせつないくの休憩が休憩にならないのです。目に毒注意です。

また、食堂で働く社員さん曰く「バラ園見学など中之島のツアーをする団体さんにも、観光途中のお食事処として利用してもらっています。市役所の昼休み以外の時間帯でしたら予約も承っているんですよ」。

決して目立つとは言えないロケーションだが、実は街の大衆食堂同様に一般の人にも開かれていて、上手に利用している人も多い。中之島を往来する人なら、一度は市役所地下食堂の、安くて腹持ちのよい定食を味わってみたいだろう。

●大阪市役所地下1階 オステリア

40年以上給食・弁当などのサービスを行う大東市のコック食品株式会社が運営。魚、肉、中華料理などからメインが選べる日替わりランチ500円。意外に営業時間が長く、朝9時から営業し、11時までは朝食定食380円もあり。9:00AM～4:30PM 土・日・祝休



いる中、機能や質の面での競争が生まれている。「おいしい食堂がある」ということは、今やオフィスビルにとつてのセールのポイントになりつつあるかもしれない。そんな目で、「社食」を見てみるのも面白い。

昼休みの時間を割いて、他のビルから足を延ばすサラリーマンが連日絶えなかったという。食堂に来るだけではない。ここへ行けば、何かしらの目的や楽しみがあった。

竣工からいち早く歯科医院やホテルを併設していた多機能性も話題になった。仕事で遅くなくても、地下街の居酒屋で一杯やってから併設のホテルNCBで夜を明かし、喫茶店でモーニングをとって理容室で身だしなみを整えて出社すれば、家に住むのと同様にストレスなく生活できる。

中之島センタービルが目指してきた「気持ちのよい職場づくり」の結論は、働くためだけでなく、暮らせる、場所に対することが次々と建設されていく現在に先駆けて、このビルはすでにそれを実現させていた。



「倶楽部」と「会館」。

― オフィスビルに見る「都会の社交場」の歴史

高岡伸一（建築家）

ダイビルの「倶楽部」。

中之島のオフィスビルの歴史から、食堂などのレクリエーション事情を抜き出してみよう。

中之島に限らず、大阪におけるオフィスビルの最も早い事例のひとつとして必ず名前が挙がるのが、2013年に外壁を復元してオープンしたダイビル本館。オリジナルは大正14年（1925）に完成した8階建てのビルだ。そもそもオフィスビル自体が珍しかったこの時代、重要文化財の綿業会館などで知られる建築家・渡辺節は、アメリカ風の合理的な思想を背景に、当時最新の設備を導入して、「西の大ビル、



昭和35年（1960）、関電ビル竣工当時の中之島の様子。右にダイビルが建っている。



大正14年（1925）に竣工した、かつてのダイビル。

東の丸ビル」と謳われる西日本随一のオフィスビルを設計した。

当時のジャーナリスト北尾鐙之助は、名著『近代大阪』（1932年）の中で田箕橋付近の水辺を取り上げ、若きインテリやモダンな女性達が闊歩する夕暮れの都市風景を活写し、ダイビルを「大阪における大建築の最高のもの」と讃えている。

テナントもダイビルを設立した大阪商船や宇治川電気、日本電力が本社を構えた他、イギリスやドイツ、アルゼンチンの領事館などが入居していた。ダイビルは、大正時代におけるモダンライフの象徴だったのだ。

そんなダイビルの最上階には「大正



旧ダイビルの最上階にあった「大ビル倶楽部」社交室(右)と特別食堂(左)。



ル食堂」があり、広々としたホールには喫茶コーナーと休憩スペースが設けられていた。スペイン風のモダンな食堂は各種宴会の他、結婚式会場にも使われて注目を集めたという。

そして堂島川を望む北西の一番良い場所には、在館者のための憩いと社交の場として、「大ビル倶楽部」が設けられた。倶楽部には社交室や新聞雑誌を揃えた読書室、会員専用の特別食堂の他、囲碁将棋を置いた娯楽室やビリヤード室であった。倶楽部には入居テナントの役員のほか、大阪財界や日本政財界の要人が集っては、度々重要な会合が行われたそう。

「会館」のあった関電ビル。

ダイビル本館の南隣にそびえる関電ビルは、2004年に現在の超高層タワーが完成するまで、ダイビル本館の東隣、現在の中之島ダイビルの建っている場所にあった。

昭和の高度経済成長期、高層地区に位置づけられた中之島はビジネスセンターとして開発が進められ、そこに昭和35年(1960)、関電の本社ビルが建てられた。当時日本の建築基準法ではビルの高さは31mに制限されていたが、関電ビルは特別の許可を得て、地上12階、高さ45mの高層ビルとして

設計された。平べったい箱の上に縦長の箱を積み上げた、シンブルな外観をご記憶の方も多いだろう。

敷地一杯に建てられたマンモスビルが都会を埋め尽くしていったこの時代に、関電ビルは敷地の60%をビロティやオーブンスペースにしてパブリックへ解放し、高層階も大きくセットバックさせて、自社ビルで働く人のみならず、お隣のビルにも自然採光を大きく取り入れるための「空間」を設けるなど、これからの都市環境を提案する画期的なビルとして大きな話題になった。この時代の本社ビルには、地下にいわゆる「社食」があるのが通例で、関電ビルも地下3階に大きな社員食堂が



旧関電ビルの2階にあった Grill。

設けられた。「社食」という窓のないう閉鎖的で無機質なイメージが思い浮かぶが、関電の社食は地下ながらも二層吹抜のゆったりとした空間で、光庭を通じて自然採光を取り入れ、インテリアも木質系をベースにしたシックなデザインでまとめるなど、とても居心地が良さそう。

そして2階の堂島川に面した部分には、13の集会室を中心に、 Grill やバーコーナー、クロックまで設えられた「関電会館」が設けられていた。高級感たっぷり木目調のシックなスペースからは、大きなガラス面を通じて川辺を見下ろすことができた。

◎

日本にオフィスビルが登場する大正末期から、戦後の高度経済成長期まで、代表的なオフィスビルにはそこで働く人たちのための食堂が設けられていただけでなく、戦前は「倶楽部」、戦後は「会館」と呼び方は変わるが、職場とは異なる都会の社交場が設けられていたことが読み取れて面白い。

たかおかしんいち
建築家。大阪市立大学都市研究プラザ特任講師。江之島文化芸術創造センターのプランニングディレクターも務める。戦後に建てられた洗いを愛するBMC(ビルメンアカフエ)のメンバーでもあり、写真集第2弾「いい階段の写真集」(バイエントナショナル)が発売されたばかり。4月19日(土)にはナカノシマ大学にも登場P14。

今

回の中カノシマニアは、国際色豊かな特別編をお送りする。きっかけは、本誌55号に中之島と昭和の歌についての論考を寄稿いただいた大阪大学大学院の准教授・輪島裕介さん（ポピュラー音楽研究／大衆文化史）のひと言。「日本のメディアや文化史に興味のあるドイツ人留学生がいて、彼女に何か書けると面白いんじゃないかと」。

先生、ありがとうございます、それいただきます、というわけで実現した「中之島のドイツ探訪」。月刊島民のフィールドであるこのシマ界隈で、ドイツ文化はどう紹介されているか。当の国から来た学生は何を



ルだった。戦後、その関心はアメリカ文化へと移ったけれど、あの旧き日々への郷愁は残っている。

今の大阪にも、ドイツ文化の息吹を感じるところがいくつもある。ひとつは、1897年、中之島にオープンした日本初のビアホールを引き継ぐ「アサヒスーパードライ梅田」（※1936年に現在の梅新交差点に移転）。日独ふたつの文化が歴史の中で混じり合う店



日本語訳

中之島の「ドイツ文化ノスタルジア」。

メラニー・ヴィマー

遠く離れているにもかかわらず、日本人とドイツ人の気質はよく似ているといわれる。ドイツの文化と技術は戦前まで日本の近代化のモデル

内は、年配のお客さんが多いのも手伝って、過去への郷愁をかきたてずにはおかない。

（ミュンヘンで毎年開かれる）ビールの祭典、オクトーバーフェストなどで着るドイツの伝統衣装「ディアンドル」を模した制服姿のウェイトレスは、お約束通りに、かの有名なザワークラウト（キャベツの漬物）を添えたドイツ・ソーセージとドイツ・ビール、それに日本のビールも一緒に運んでくる。盛り合わせの皿には、ババリア（バイエルン）名物の白ソーセージも載っている。ただし、現地では、朝食のごちそうとしてお昼前に食べるのが伝統なのだけれど。

生演奏のステージでは、女性歌手がとても高い声でドイツの曲を歌ってみせる。立ち上がってジョッキを掲げ、有名なドイツの乾杯ソングをうれしそに唱和するお客さんたち。床を踏み鳴らして踊り始める女性たち。この光景は、日本の1950～60年代の歌声喫茶を彷彿とさせるのだそうだ。



中之島に 「ふたつのドイツ」を 訪ねてみた。

中之島のもう一方では、クラシックで落ち着いたドイツの調子が聞こえる。分厚い真紅のカーテンを配したインテリアは、ビアホールよりさらに古い時代を思い起こさせる。2013年7月、大阪で最も古い商業ビルの1階にできた日本初の「ダルマイヤー」のカフェ&ショップ。運営会社のアマデウスによれば、美食の都たる大阪は、ダルマイヤーの outlet には完璧なロケーションだとか。

「大阪は（本店のある）ミュンヘンによく似てるんです」

感じるか、という異文化理解的な企画である。

そ

の留学生は、メラニー・ヴィマーさん(23)。ドイツ南部

のミュンヘン出身で、オランダの大学院修士課程に在籍中。EUが進める「エラスムス・ムンドゥス」という交流プログラムで、連携校の阪大に昨年から一学期学び、帰国直前だった彼女に、かつて月刊島民に登場したドイツに縁ある店を訪ねてもらい、取材と記事の執筆を依頼した。

一つは「アサヒスーパードライ梅田」。約120年前の中之島にルーツを持つ「日本初・本格ドイツスタイル」のビアホール。もう一つは、昨年新生なったダイビルにオープンしたカフェ「タルマイヤー」。ミュンヘンに本拠を構え、「王室御用達」のコーヒーや紅茶で知られる名店が、日本初進出の地を選んだのが、この中之島だった。

ミュンヘンっ子のメラニーさんには、どちらも馴染み深い地元文化のはず。だが、日本というフィルターを通して接するその光景は、かなり新鮮だったよう。「素晴らしい体験でした」との喜びの言葉と興味深い「修了レポート」を残して、ヨーロッパへと帰って行った。ドイツの「文化系女子」が見た「中之島のふたつのドイツ」をどうぞ。

原文

A nostalgic love for German culture in Nakanoshima

By Melanie Wimmer

Despite the great distance, Japanese and German mentality is said to be quite similar. In the pre-war period Germany served as a model for Japan in terms of culture and technology and even though the focus shifted to the United States after the allied victory, a nostalgic sentiment about the old days remained.

Today, there are various places in Osaka to get a feeling for German culture. One is Asahi Super Dry Umeda, the first beer hall in Japan, established in Nakanoshima in 1897. With a clear mixture of both cultures and an elderly audience, one can almost touch the sentimentality for the past.

Waitresses wear an imitation of the Dirndl, the traditional German dress worn to the annual beer festival Oktoberfest and other events. Confirming the stereotype, they serve German sausages with the famous Sauerkraut (sour cabbage) and German as well as Japanese beer. The white sausage, a Bavarian delicacy, which should traditionally be eaten before noon as a savoury breakfast, can also be found on a mixed food platter.

Throughout the live performance, the singer showed her talent by singing German songs with an unusually high-pitched voice. With a smile on their face and a big German beer jug in their hand, Japanese visitors of the beer hall were standing up to the famous drinking songs and sang along in joy. Some Japanese women even got to their feet and danced together. This scene may look and feel like that of a popular sing-along coffee shop in Japan in the 1950s and 1960s.

At the other end of the Nakanoshima district, a more classic and calm melody can be heard and the interior design such as heavy, red curtains reminds one of even older days. Here, in the oldest commercial building in Osaka, the first Dallmayr café and shop opened in July 2013. For Amadeus Corporation, Osaka is the perfect location for the German café, as it is known for its delicious food culture. 'Osaka is like Munich' says the director Mrs Yoshiko Fujita. 'Both cities are different than the rest of their country. Both are very proud of their distinct culture, dialect and food.'

Dallmayr, Europe's biggest delicatessen store and a family business since 1700, wants to promote Germany's long history of traditional coffee culture with this café. Even in Japan, the dishes are made according to original recipes by German butchers as well as a Japanese pastry chef, who obtained his master in Germany. The café should become a meeting point for people to socially engage with each other and talk about culture as well as business. For now, it attracts young and elderly Japanese business people as well as housewives, but soon tourists and artists will discover it too, hopes Mrs Fujita.

Just like the beer hall, at the heart of a cultural hotspot, close to Osaka's festival hall and museums, it targets the ideal customers: Kulturliebhaber (literally: lovers of culture).



と取締役の藤田佳子さん。「どちらも(首都の東京やベルリンなど)国内の他の地域とは異なる個性がある。そして、どちらも独自の文化や方言や食べ物に誇りを持っているから」。

ヨーロッパ最大のデリカテッセンにして、1700年の創業から代々一族で受け継がれてきたタルマイヤーは、このカフェを通じて、ドイツの伝統的なコーヒー文化の長い歴史を紹介しようとしている。料理は本場のレシビ中心で、ハムもドイツ人の職人が手がける。(提供するスイーツの)



日本人パティシエはドイツでマイスターの称号を受けている。この店は、ビジネスだけでなく文化を通じて交流する人びとが集う場所になるだろう。ビジネスマンや主婦のお客さんはもとより、近い将来、旅行者やアーティストたちもここを見つけて、集まってきてくれるといい、と藤田さんは期待している。

フェスティバルホールや美術館に近い文化の中心地にあるタルマイヤーが狙うのは「文化系」な人びと。そう「ナカノシマニア」と言っている。



住むコトのヒントがつまった体験型ラボ、
「住ムフムラボ」ガイド

ふむふむ！ 住ムフム^①



グランフロント大阪
(北館)
ナレッジキャピタル
4階



住ムフムラボは「これからの住まい方」のアイデアが満載、気軽に楽しめる体験型ラボです。

住ムフムラボの人気No.1ゾーン！

**日本の季節を
体感できるリビングで、
自分に合った居心地の
良さを見つけられる。**

住ムフムラボには「かぞくのかたち」「いご
こちのかたち」「いきかたのかたち」という3
つの展示空間があります。展示と言っても、
モデルハウスやショールームではありません。
住ムフムラボは、これからの暮らしや住まい
のヒントが発見できる場所です。

例えば「いごこちのかたち」ゾーンには、
日本ならではの繊細な季節の移ろいを感じら



れる空間があります。凹凸のある木の床に座
る、革張りのソファに身を委ねる、畳でくつ
ろぐ…。五感を使ってさまざまな過ごし方を
体験して、自分に合った居心地を見つけるこ
とができます。

住ムフムラボには、「これからの住まい」を
イメージするためのヒントが満載です。

他にも、こんなこと。

2000冊の本や雑誌が読み放題。

テーマ別に分けられた展示空間には、知識や好奇
心を深めるアイテムや研究員が選んだ関連図書が
2000冊以上並び、自由に読書が楽しめます。展示か
ら本からもたくさんのヒントが見つかります。

暮らしを考えるワークショップも続々。

住ムフムラボのサイトに寄稿しているコラムニストの
トークセッションや、これからの住まいのあり方を体験し、
みんなで考えるワークショップは人気のイベント。気軽
にご参加ください。研究メンバー(会員)に登録すれば、
限定の特典もいろいろ！

ソファでゆっくりコーヒー、もOK！

ラボの中央に位置する「住ムフムスクエア」では、お
茶を飲みながらお気に入りの本を選び、椅子やソファ
の座り心地を楽しみつつゆっくりと読書が楽しめます。
美味しいコーヒーは、ラボ内のカフェカウンターで。



住ムフムラボの研究員とサイトで人気のコラムニストたちがトークを繰り広げます！

住ムフムセッション

定期
開催

参加
無料

予約
不要

3/20(木) 19:00~

「楽しく健康に、
じゃないとスポーツじゃない」



平尾 剛さん
(神戸親和女子大学・
元ラグビー日本代表)



江 弘毅
(『月刊島民』編集発行人)

ラグビーのW杯日本代表フルバックでもあった、元神戸製鋼コベルコステ
ィーラーズの平尾剛さん。現役時代は「勝ち抜くためのスポーツ」を実践して
きました。しかし、引退を考えていた矢先に怪我をして以来、スポーツと身体や
健康との関係について考えるようになり、現在は大学で「スポーツと身体運
用」を教えています。毎日新聞の連載「身体観測」を長期にわたって書くなど、
ボールをベンに持ち替えた今、平尾さんが考える最前線の「健康とスポーツ
の関係」とは？

4/24(木) 19:00~

「操られる遺伝子…STAP細胞から生活習慣病まで」
〈その1〉エピジェネティクスへの道



仲野 徹さん
(大阪大学医学部教授)



久坂部 羊さん
(作家／医師)

仲野徹さんが研究する「エピジェネティクス」とは、遺伝とは無関係の「カラダ
の記憶」が健康に影響を及ぼすメカニズムのこと。例えば高血圧や糖尿病の原
因が、胎内にいた時の母親の健康状態に起因する場合があることがわかってい
ます。がんの発症にも関係しているとされ、エピジェネティクスを制御する治療法も
使われています。聞き手に阪大医学部の同級生で、医療や老いをテーマとした
小説で人気の久坂部羊さんを迎え、医学の最前線とわたしたちの暮らしをつない
でいただきます。5月には第2弾も開催予定。こちらとあわせてお楽しみ下さい。



豪華執筆陣のコラムや
研究メンバー登録は
WEBサイトをチェック！

住ムフムラボ 検索

生きるコトを、住むコトに。
SUMUFUMULAB
【住ムフムラボ】



グランフロント大阪(北館)ナレッジキャピタル 4階

JR大阪駅・阪急梅田駅・阪神梅田駅・地下鉄梅田駅・西梅田駅・東梅田駅より徒歩。

□開館時間:10:00~21:00 □定休日:水曜日・年末年始 ※詳しくはsumufumulab.jp

〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号 グランフロント大阪(北館)ナレッジキャピタル 4階

積水ハウス株式会社 総合住宅研究所 住ムフムラボ TEL:06-6485-7590



ちよと、隣のビルまで。

取材・文／大迫 力(本誌)



第22回

『みんなの牡蠣小屋』@中之島バンクス

堂島川に浮かぶデッキにて、
産直食材の海鮮バーベキュー。



思わず目をむく牡蠣のパケツ量り
売りは1kg(5〜6個)1,000円〜、
ホタテ貝の浜焼き1個800円。ち
なみに、カニは「お通し」で出てくる
もの。これもすごい。

ビルとはちょっと違うのだけれど、この冬、堂島川の水上で中之島を盛り上げているのが、中之島バンクスの水上デッキにオープンした『みんなの牡蠣小屋』だ。パケツに入って出てくる殻付きの牡蠣やホタテを、網を敷いたカセットコンロの上にそのままどかんと乗っけて焼く。港町のような「浜焼き」のスタイルは、堂島川の上というロケーションにも何となく合っている。

1月半ばにオープンして以来、近くのビルに勤める人たちが、週末は家族連れでにぎわう。牡蠣は仙台などから直送、その他の海産物もほとんどが東北地方でとれたもの。ジュワジュワと焼ける音がして、殻がはげたりする度に、あちこちのテーブルで歓声があがる。

軍手をはめ、アツアツを頬ばるバーベキューのようなノリだ。

こちらは、すぐ隣にあるレストラン『SAINT-LOUIS AMUSE』が開いているもので、昨年の夏にはビアガーデンになったりと、季節ごとにいろいろな使い道があるようだ。店長の小谷光香さんは「夏と冬だけでなく、一年中、何かできるようにしたい。『あそこへ行けば何かやっている』と期待してもらえるようになりたいですね」と話す。

夏のビアガーデンもそうだが、こんな風に仲間とワイワイ言いながらやるのが楽しい場所は、オフィス街である中之島にはとても似つかわしい。



中之島バンクスの一番西側、船着場にもなるデッキの上で営業中。



みんなの牡蠣小屋

浜焼きのほか、刺し身や東北の食材を使った一品料理などメニューはいろいろ。牡蠣の苦手な人でも楽しめる。期間は3月31日(月)まで。テーブルの予約はできないため、空き状況の確認をおすすめ。

☎080-9459-0339



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

2014年4月講座

「クラブ・リバーサイドをもう一度」

出演／BMC (ビルマニアカフェ)

長崎励朗 マルタニカズ

こんな中之島
もあった！

中之島の川沿いの渋ビルを舞台に、
「いいビル」トーク&音楽ライブを開催！

昭和30年代、土佐堀川沿いにあった
カフェバー「クラブ・リバーサイド」は、
モダンなインテリアと音楽で人気のサロ
ンの空間だった。今見ても絵になるのは、
ボートで乗りつけ、土佐堀川からそのま
ま店へ入ってくる様子。堤防が高くなっ
た時代には、こんな遊び方もあったのだ。

昭和38年(1963)に閉店し、その後
は中之島リバーサイドビルディングという
オフィスビルになった。クラブの創業者
である母からビルを受け継いだ、リバー
サイドハウジング代表の桐生幸之介さん
は、かつてのような川と人のいい関係を
復活させるべく、中之島の地域行事の運
営にも積極的に参加している。



今回のナカノシ
マ大学は、その
リバーサイドビル
ディングのワンフ
ロアを使ったイベ

ントを開催。BMC (ビルマニアカフェ)
のみなさんによる「いいビル」レクチャー
や、昭和30年代の流行歌ライブ、そして
屋台も出店。水辺で過ごす楽しさを感じ
てもらえる「春の文化祭」をお楽しみに！

◎今月の授業①

【水辺のビル】



当日のプログラム(予定)

2:30PM～ 開場

会場の中では、昭和30年代の
写真や、BMCオリジナルグッズの
ブースのほか、新刊「いい階段の
写真」も販売。ドリンク&フードの屋
台も登場するぞ！



3:00PM～ ①建築トーク 「大阪の水辺とビルのいい関係」

出演／BMC

会場のリバーサイドビルディングをはじめ、大阪
のビルと水辺のいい関係について、BMCのみな
さんがレクチャー。写真もたっぷり登場。また、ビルの
オーナーの桐生さんが進める、中之島での新しい
プロジェクトについても一足先にお披露目します。

4:30PM～ ②音楽史トーク 「昭和30年代の盛り場と音」

出演／長崎励朗(京都文教大学専任講師)

日本の音楽史や歌謡曲に詳しい長崎さん。昭
和30年代に流行った音楽について、当時の社会
情勢をふり返りつつ語ってまいります。注目のデビ
ュー作「つながり」の戦後文化誌も販売します。

6:00PM～ ③流行歌ライブ 「クラブ・リバーサイドをもう一度」

出演／マルタニカズ

昭和30年代のクラブではこんな音楽が流れて
いたのでは？ というテーマのもと、「浪速のカエタ
ー」ことマルタニカズさんが、当時の流行歌あり、
ラテンもありのライブで締めくくります！

※立ち見制です。※入退場、会場内での移動は自由です。
※時間や内容は変更する場合があります。

募集要項	「クラブ・リバーサイドをもう一度」 日時／2014年4月19日(土) 3:00PM～7:00PM頃(開場2:30PM～) 会場／リバーサイドビルディング 入場料／2,500円 定員／80名 主催／ナカノシマ大学事務局 リバーサイドハウジング	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学4月講座①」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ

☎ 06-4799-1340

(ナカノシマ大学事務局)

え、あべのと天王寺なのに
「住吉区」の地図??

古地図と今の街を
比べて歩く

◎今月の授業②

【古地図】

2014年4月講座

「古地図ウォーカー、大阪をゆく」

第4回 「あべの」と「天王寺」。

講師／本渡 章 (作家)



今月の1枚

「大大阪区勢地図
最新の住吉区」

題名の「最新の住吉区」は間違いではない。この図の発行された昭和13年(1938)に阿倍野区は存在せず、住吉区の一部だったのだ。では、なぜ住吉区なのか? この話をさかのぼれば、あべのと天王寺のはるかなルーツにたどりつく。続きはナカノシマ大学で…。

あべのと天王寺は、どこからどこまで? はるかなルーツとその変遷を、古地図を手がかりに確かめてみよう。

日本一の高さを誇るあべのハルカスが
開業するなど、何かと今話題のあべの・
天王寺。ところでこの2つの地名だが、
なんとなく使い分けていたり、一緒だと
思っていたり…。地元の人にとってみれば
「別」の街なのだろうが、わかっているよ

うで実はよくわからない人も多いのでは。
半世紀前の地図帳「大阪22区」(大阪
市発行)を覗いてみると、どちらも大阪
きっての文教エリアであることがわかる。
さらに歴史を掘り起こせば古代にまで通
じ、中世・近世の遺産は今でも多く残り、

街の陰影を深くしている。

今回は、戦前と昭和中期の阿倍野区・
天王寺区の詳細地図を片手に、古地図
ウォーク。あべのはなにゆえに幾度も古
戦場になったのか? あべのと天王寺の
境界はいったいどこなのか? はるかなル
ーツとその変遷を、足で歩いて確かめて
みたい。

募集要項	「古地図ウォーカー、大阪をゆく」第4回	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時／2014年4月28日(月) 7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～) 会場／追手門学院 大阪城スクエア 受講料／2,500円(資料用大判古地図付き) 定員／120名 主催／ナカノシマ大学事務局 協力／関西・大阪21世紀協会	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学4月講座②」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

トウニン月報

2014年3月1日発行



大阪府立中之島図書館は 開館から110周年

明治37年（1904）に開館した大阪府立中之島図書館は、先月めでたく開館110周年を迎えた。

在は「1世紀からの新たな歩み写真と資料でたどる10年の軌跡」が2階中央ホールで行われている。2004年からの10年間にわたる講演会の記録や、12月の光のルネサンスのライトアップ写真などを



上／開館当時の様子。
左／大正11年（1922）には両翼の建物を増築する。正門前には豊国神社があった。

見るのがいい。

それとは別に行われている小展示「見立番付展」もなかなか面白い。相撲の番付よろしくさまざまなものを格付けしているのだが、町医者やお金持ちなど役に立ちそうなものもあれば、同じ意味の語を重ねた「重言」（美しい美女などの）番付など、使い道のよくわからないものも（ちなみに大関は「御御堂さん」）。

今後、中之島図書館ではいろいろなイベントを企画していくとのこと。ホームページや館内設置のチラシなどをこまめにチェックしておくべし。（大迫力・本誌）

あらためて知りたい 天満の歴史とその魅力展



天神橋6丁目にある大阪くらしの今昔館で、企画展「天満の歴史とまちづくり」が始まる。これは大阪市内でも歴史や文化が特に豊富な天満エリアにおいて、地元の人々が一丸となってその伝統や魅力を紹介し、さらに天満を元気にする試みの一環でもある。

今回の企画には大阪天満宮、天神橋筋商店街の老舗商店から歴史文化資料が集結。天神祭の船渡御に使われていた「御迎え人形」や、天満切子、提灯といった天満で活躍する職人の伝統工芸品が展示される。

会期中は島民でもおなじみの高島幸次先生による講演会も。天満の風土や人情が上方落語をどう支えてきたのか、天満天神繁昌亭の人気を例にして考える。

最終日には、まちあるきツアーを実施。島民2月号でも



特集した「浪花百景」から、人気投票で選ばれた「天満天神地車宮人」や「天満樋の口」などに描かれる、大阪天満宮投票の結果選ばれたのは、天満の春夏の風物詩を描いた「天満樋の口」（左）や「天満天神地車宮人」（右）など。

や大川沿いの風景を訪ねていく。幕末の大坂を描いた錦絵を手がかりに、天満周辺の名所を谷直樹館長のガイドで巡ってみよう。（江口由夏・本誌）

大阪くらしの今昔館 第2回HOPE展「天満の歴史とまちづくり」
期間／3月8日（土）～4月6日（日） ※毎週火曜と3月17日（月）・19日（水）は休館
開館時間／10:00AM～5:00PM（入館は4:30PMまで）
入館料／企画展 300円（常設展は＋500円）
◎3月23日（日）の講演会と4月6日（日）のまちあるきツアーの詳細・申し込み方法などについては<http://konijyakukan.com>をご覧ください。

京阪電車・地下鉄天満橋駅
 すぐの八軒家浜船着場は、2
 009年に「川の駅はちけん
 や」として生まれ変わり、以
 降はさまざまな催しで一年中
 にぎわう場所となった。今年
 も、恒例の川開きイベントが
 開催される。

はちけんやお花見フェスタ
 は、八軒家浜対岸の南天満公
 園の桜並木、通称「桜栈敷一
 等席」を眺めるのにぴったり。

春の到来を体感！ 八軒家浜の2大フェス

イベント期間中は、大川さく
 らクルーズや水面を散歩する
 パドルボード体験ができるの
 で、水上からお花見という島
 民らしい楽しみ方も叶う。

土・日中心の体験プログラ
 ム目当てに、家族連れで来場す
 る島民もちらほら。春を感じ
 る食材を使ったフードのケー
 タリングカーも毎年人気だ。

このお花見フェスタの初日
 にあたる3月22日には、ヨー
 ロッパからやってきた大きな
 お祭りも同時開催。アイルラ
 ンドと日本の文化交流の場だ
 もあるアイルランドフェステ
 イバルでは、シンボルカラー
 の緑色を身につけていれば、



水都大阪川開き2014
はちけんやお花見フェスタ
 期間／3月22日(土)～4月20日(日)の土・日
 入場無料
 問い合わせ／にぎわいXing運営連絡会
 ☎06-6942-0555(大阪水上バス内)
 ※詳しくは「水都大阪」ホームページにて
<http://www.nigiwai-xing.net/>



アイルランドフェスティバル in Osaka 2014
 日時／3月22日(土)11:00AM～ 入場無料・荒天中止
 問い合わせ／INJ大阪 ☎090-4297-1810
 ※最新情報は公式ホームページにて
<http://irishnjosaka.web.fc2.com>

無料の事前登録だけで、気軽
 にパレードに参加できる。
 民族楽器であるバグパイプ
 の一種を使った珍しいアイリ
 ッシュライフが披露されるほ
 (江口由夏・本誌)



大阪にまつわる本を数多く
 手がける創元社は、かつて難
 波橋の北詰、榎上町(現在の
 北区菅原町)にあった。その
 時代から20数年間、編集者
 として勤めた高橋輝次さんが
 このほど『はくらの創元社覚え
 書』という本を上梓した。

著者の好きな古本屋めぐり
 を通して、創元社にゆかりの
 ある文学者や編集者にまつわ
 るエピソードが綴られている。
 さすがは歴史ある出版社だけ
 に、登場する作家も隆慶一郎、
 小林秀雄、青山二郎とビッグ
 ネームばかりである。

「あとがきにかえて」には、

木造の旧社屋について書かれ
 ている。

創元社にまつわる 作家と本の物語

「当初、正面玄関のすぐ左に
 営業部があり、その奥に小倉
 庫があった。横幅のある急傾
 斜の階段をミシミシ音たてな
 がら登ると、すぐ左側に南側
 が道路に面した編集部があり、
 右側には社長室の扉があった。
 (中略)当初の編集部は古い造
 りで中央辺に大きな柱があっ
 たように覚えていて。改築す
 るまで、種々の会議は社長室
 で、足らない椅子を持ち込ん

『僕の創元社覚え書』
 (1,680円／亀鳴屋)
 かつて創元社に勤務した著者
 の古本を通じた私的回想記。作
 家の横顔が垣間見えたり、ブック
 ガイド的にも読むことができる。
 注文や問い合わせは版元であ
 る亀鳴屋まで。☎076-263-
 5848 <http://www.spacelan.ne.jp/~kamenaku/>



島民生まれの 寝屋川の街歩きマップ

中之島と同じ京阪電車沿線
 の寝屋川市で、街歩きのため
 のマップ冊子が配布されてい
 る。「なんと」言っても寝屋川や
 ね」というタイトルで、市の中
 央にある寝屋川市駅周辺のス
 ポットや人が掲載されている。

寝屋川市では、街のイメー
 ジアップを図るための「ワガ
 ヤ・ネヤガワプロジェクト」
 を推進し、さまざまな企画を
 行っている。この冊子もその
 一環で、市内にある4駅(香
 里園・萱島・寝屋川市・JR東
 寝屋川)を1年に1エリアず

寝屋川市役所をはじめ、
 市内の公共施設を中心に
 配布中。寝屋川市ホーム
 ページでも閲覧できる。同
 じシリーズで香里園編、萱
 島編、東寝屋川編もあり、
 同じくホームページで見
 ることができる。

作を依頼。手前味噌で恐縮だ
 が、寝屋川では好評を博して
 いるとのこと。例えるならば
 月刊島民の兄弟のようなマッ
 プ。寝屋川市民以外の方も
 ご注目。(大迫力・本誌)

つ紹介し、今回で4冊目を迎
 えた。ところで、この表紙を
 見てピンと来た人も多いだろ
 う。本誌と同じく表紙イラスト
 は奈路道程さん。何を隠そ
 うこのマップは月刊島民がき
 っかけとなって生まれたもの。
 人を通じて街を紹介するこ
 というコンセプトの誌面が目
 とまり、寝屋川市ブランド戦
 略室から月刊島民プレスに製
 作を依頼。手前味噌で恐縮だ
 が、寝屋川では好評を博して
 いるとのこと。例えるならば
 月刊島民の兄弟のようなマッ
 プ。寝屋川市民以外の方も
 ご注目。(大迫力・本誌)

華やぐ街に誘われて①

フェスティバルプラザの「大阪らしさ」をめぐる

フェスティバルホールは「別格」のホールだと思

う。客席の人も、舞台上立つ人も、みんなをご機嫌にしてくれる。日本全国に音響のいいホールはたくさんあるけれど、こんなホールはほかにない。

昨年4月のリニールオープンを祝い、どれほど多くのアーティストが熱いメッセージを寄せてくれただろう。旧ホール最多出演を誇るさだまさしさんは、

新ホール開館記念式典で「神様が作ったホールが戻ってきた」と喜びを表現した。疑り深さが職業病である私も人々がフェスに寄せる愛の深さに感化され、ここではないいつもご機嫌になる。

初代ホールは昭和33年（1958）に生まれた。日本初の本格的なクラシック向けホールだった。初期の映像がニュース映画として残っている。「春の祭典」などで音楽史に名を残す大作曲家ストラヴィンスキーが昭和34年（1959）、ここで指揮をしたときのものだ。詰めかける人々のうれしそうな顔、顔。柔らかな絨毯、きらめくシヤンデリア、極上の音楽……なんと晴れやかな場が誕生したことか！



人々が行き交う、「街」のようなホール。

文／佐藤千晴（フリージャーナリスト）

などらかな天井の曲線も深い赤を基調にしたインテリアも旧ホールのイメージそのまま。そして、客席の晴れやかな空気もそっくり移植したかのよう

に、オープン初日から観客とホールがしっくり馴染んでいた。中之島の地に50年、伝統の力とはこういうものかと感じ入った。

このホールにはヴェネチアのフェニーチェ歌劇場、ベルリン・フィル、ウィーン・フィルといった海外の超一流も、ミュージカルもボビュラーも演歌も韓流スターも登場する。この3月末には美術家・杉本博司さんが構成・演出を手がける「杉本文楽」もある。その幅広さがいい。まるで様々な人が行き交う街のようだ。ビル1階とエントランスホワイエに向かう赤い大階段は、日常とホールという非日常をつなぐ広場。足早にフェスティバルタワーの前を通り過ぎる日も、この大階段が見えるだけでちよつとうれしくなる。

どんな公演にせよ、このホールを訪れたら、ぜひ3階席のホワイエに足を伸ばしてみたい。メモリアルコーナーに旧ホールで名演を繰り広げたアーティストたちの写真が並び、ホールの歴史を物語る。

さとうちちはる

2013年4月まで朝日新聞記者。フェスティバルホールリニールオープン取材を担当。ヘルメットをかぶって真夏の工事現場を歩き回ったのもいい思い出。

祝 祭 へ よ う こ そ。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>

提供／株式会社 朝日ビルディング

フェスティバルホール

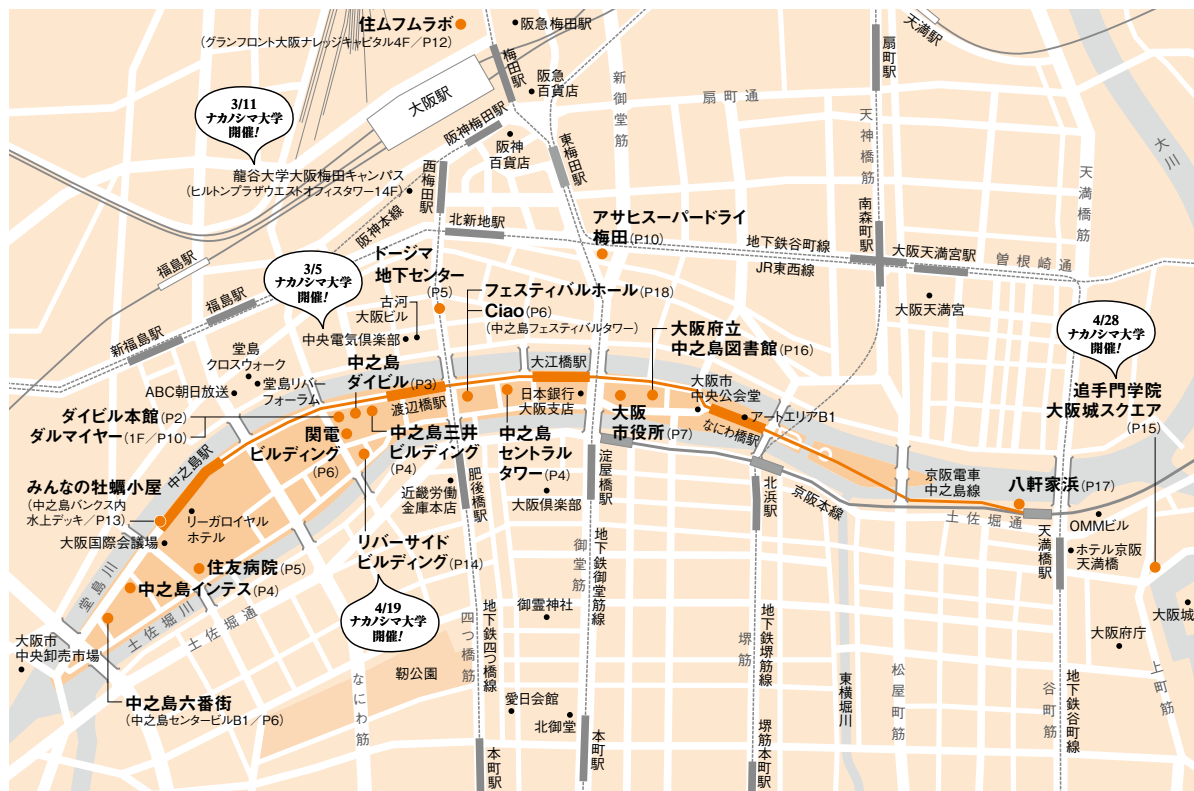
●中之島フェスティバルタワー2～7F

音質の良さと幅広いジャンルの公演が行われることで知られ、国内外の数々のアーティストが賞賛の声を寄せている。昨年のリニールオープンから間もなく1周年を迎え、4月8日には大阪国際フェスティバル2014の提携公演として、名門ウィーン室内合奏団の公演も控えている。先日にはフェスティバルホールのオリジナルグッズを販売するショップも新設。<http://www.festivalhall.jp/index.html>



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 【書店】旭屋書店 梅田地下街店／カベラ書店／紀伊国屋書店 梅田本店／紀伊国屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／天牛書店 大江橋店／ブックファースト 梅田店／ブックファースト 淀屋橋店／文芸堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店
- 【公共施設・大学関連施設など】アイズボット／朝日カルチャーセンター 味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送 大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス
- 【店舗・医院など】アリアスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／大西洋服店／OOO(オー)／カセッタ／喫茶センター／喫茶SAWA／グランサイト中之島／黒門さかえ／コモンカフェ／サトウ花店 中之島本店／ザ・プロディ／シトルベストコーヒー新聞電ビル店／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セントレイン大阪証券取引所店／タビエスタ／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャノ／バスターレー／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイルハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／ラッカード／LES LESTON
- 大阪市内その他 【書店】伊勢屋書店／大阪書店／紀伊国屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳太書／ループル書店 【公共施設・大学関連施設など】大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館／川口基督教会 【店舗・医院など】あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御舟かもめ／Calo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワンナ／バルビコ／ホテル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学運堂 フレスト店／Books 呼文堂／水嶋書房 千早はもろ店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画部広報・社学連携事務局／大阪大学 21世紀徳徳堂／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・ジンプン／百録／奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 本日は、お日柄もよく。

ここ数年で中之島に加わってきたのが「ウェディング」というキーワードだ。
なぜ中之島で? ブライダル業界の流行と関連づけて読み解く。

●『月刊島民』vol.69は2014年4月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社